

<p>中村太士 北海道大教授 (生態系管理学)</p>	<p>・盛り土を計画している場所の自然環境や盛り土後にどうやってエコパークにふさわしい環境に戻すかは議論になる。</p>
<p>徳永朋祥 東京大教授 (地下水学、地圏環境学)</p>	<p>・静岡市の水収支解析は水循環全体を評価する目的でつくっている。生態系を評価する際には親和性が高い。 ・生物多様性について議論する沢の水質や水温などどういう性質を持っているか共有することが大事。</p>
<p>大東憲二 大同大教授 (環境地盤工学)</p>	<p>・沢カルテには構造的な情報がある。静岡市の動植物の情報も載ると、水量が減るなど影響が出たときに生態系とリンクしやすくなる。 ・JR東海の水収支解析モデルで、地表の生態系について議論するのは難しい。</p>
<p>丸井敦尚 産業技術総合研究所 招へい研究員※ (地下水学)</p>	<p>・水収支解析は常に不確実性がつきまとう。原因はリアルなデータがないこと。JRには汗をかいてデータを集めてほしい。</p>
<p>辻本哲郎 河川情報センター 河川情報研究所長 (河川工学、河川生態学)</p>	<p>・どんな条件を下回ると問題なのかは、物理条件以上に生態系の条件から決まる。どういう生物を指標種にして環境管理するのか議論すべきだ。</p>
<p>保高徹生 産業技術総合研究所 グループ長 (リスク学、地盤環境工学)</p>	<p>・膨大なデータをどう使い、何を評価するのか議論が必要。 ・(発生土置き場について)豪雨の影響や、生態系を良くするためにどう使うかは知見があまりない。環境だけでなく、構造物についても議論するのか検討してほしい。</p>
<p>竹門康弘 京都大防災研究所 准教授 (生態系管理学)</p>	<p>・(残土置き場付近の)流域でどれくらい土砂の量があるかや川の濁りが起きているかデータを持っている必要がある。</p>
<p>板井隆彦 静岡淡水魚研究会長※ (動物生態学)</p>	<p>・工事が始まると作業員700人ほどが現地に入る。そこでの生活用水や排水はどうなるか。作業員が植物の栽培や釣りをすることがあり、分布が乱れることが懸念される。</p>